

高齢者の居場所づくり

作成: 8・6横山郁代

2014・7・30/8・5
くびき希望館&市民プラザ
橋立、斎藤、北川、今井、横山

居場所とは生きがいづくり 社会とつながって生きてゆく

- ・高齢者の経験や技術を活用したい。(農業、林業)
- ・人口減少社会を支えるために高齢者を活用したい。
- ・地域の活力を取り戻したい
- ・高齢者が孤立しない社会にしたい。
- ・地域の空き家を活用したい

- ・遠慮しないで最後まで生き生きと生き抜こう
- ・自分のライフワークを見つけよう
(自分ひとりでもグループでもできること)
- ・自分の生涯学習のテーマを見つけよう
- ・季節的なハンデを考えた長生きの方法を見つけよう

- ・利用者ひとりひとりの違う能力をだせるようにしたい。
- ・男性の高齢者を引っ張り出したい
- ・みんなが元気になる場所がほしい

- ・家族が安心して送り出せる場所にしたい。
- ・集まる人がハッピーな気分になってもらいたい
- ・自分でいろいろ自由に選べる選択肢がたくさんあったほうが良い(ディサービスでやりたいことが選べる楽しさがほしい)

- ・老人会という名前は「老人」という枠があり
もっと主体的に行動的に生きていきたい。
- ・既存の枠(会)に新しい人を取り込むのは大変だ。
- ・工夫している老人会あるので参考になるかも
- ・枠組みにとらわれない生き方がしたい
- ・ボランティアでは限界があり生きがいにつながらない
- ・無理やりみんなと同じことをしたくない
- ・年をとってから新しいことに挑戦するのはエネルギーが必要だ。
- ・定年退職をする前からその後の人生を考えることも大切だ。(定年後の生き生き人生の過ごし方とは)
- ・終活は人生の生き方の集大成
- ・介護、土地や財産など、こどもや周囲の負担をかけない
「老後」を考えたい
- ・一人暮らしの不安を解消する方法を考えたい
- ・介護予防にウェイトを置く

- ・高齢者が自尊心を大切にできる生活とは？
- ・男性も女性も元気の源は異性。異性の存在は自己を
気遣う(身だしなみを気にすることは大事)
- ・いくつになっても学びは大切だ
- ・料理や家事。生活の中でできること、好きなことをやってみる
- ・夫婦のお互いに意志を尊重する生活を工夫する
- ・夫婦、お互いを理解する

・地域で高齢になっても生き生き過ごせる場所とは？ 新しい形のディサービスや地域の茶の間を考える

- ・高齢化社会をむかえて生きがいを求めたい
- ・高齢者も誰かの役に立ちたい
- ・人様の役に立ちたい
- ・人様の役にたつて喜んでもらうことで自分も喜びになる
- ・心身の健康に役に立ちたい
- ・若い人をバックアップしたい。

- ・介護保険の見直しに向けて情報はたくさんあったほうが
良い(要支援者を地域で見守るしくみをどう作るか?)
- ・介護保険の現状を知りたい
- ・市の施設の利用状況は？
- ・介護施設の現状は？
- ・健康維持の施設の現状は？

- 行政(県、市)
- 社会福祉協議会
- 地域包括センター
- 介護事業所
- 病院、介護施設
- 地域、町内会、市民活動